



高校野球のマナーとルールを学ぼう (第25回)



一般財団法人兵庫県高等学校野球連盟

グラウンドでの試合を振り返り、高校野球の大切なマナーとルールを学びましょう。
あなたの「なぜ? どうして?」にわかりやすくお答えしていきます。

マナー編 体罰事件に思う

部活動の指導者による体罰が原因で生徒が自死する事件がありました。厳しい練習でそれなりの結果を出していたと聞きますが、何より生徒のことを思うと言葉がありません。

日本高野連から発表される処分の中にも、依然として「体罰・暴力事件」が含まれています。まず「体罰」も「暴力」も学校現場にあってはならないもの、またスポーツとは結びつけないものです。

部活動という同好の仲間が集う場では、技術の向上や目標を目指した厳しい練習やカリキュラムも必要です。しかし、厳しい＝ビンタ・殴る・蹴るではありませんし、時に「鉄拳のおかげで今の自分がある…」などと美談に語られるのを大目に見てきたことで問題を解決できずにいます。「練習中は水飲み厳禁」で育ってきたはずの指導者が、「適度な水分補給・効率の良いスポーツ飲料」を認める一方で、心身の鍛錬には手を出すことも当然だと自負するようでは真のスポーツマンは育ちません。試合中のミスにベンチから罵声を浴びせる監督も同様でしょう。自チームの選手への指導力はもちろんですが、相手チームへの失礼を顧みない態度にも問題があります。師弟・先輩と後輩など大切な人間関係が育まれるべき現場で、体罰や暴力まで縦に受け継いできた事実を悔い改めることもマナーです。

ルール編 投手が自由な足を正しく踏み出して一塁へけん制球を投げたのに、ボークが宣告されました。どうしてでしょうか? (2012年秋季県大会でのプレイ)

無死走者一塁の場面。投手の癖なのか、けん制時に重心がかかかたに移り、一塁側に身体が傾くような形で送球しました。球審と二塁審判がボークを宣告、一塁走者に二塁への進塁を指示。守備側ベンチからの伝令が、「投手は自由な足を正しく踏み出しているのに、なぜボークなのですか?」と球審に確認がありました。

規則に関して、よく議論されるのがボークです。規則 8・05(a)~(m)はボークとなる場合を規定しています。その(c)に、「投手板に触れている投手が塁に送球する前に足を直接その塁の方向に踏み出さなかった場合」、同じく、原注で、「投手板に触れている投手は塁に送球する前には直接その塁の方向に自由な足を踏み出すことが要求されている。投手が実際に踏み出さないで自由な足の向きを変えたり、ちょっと上に上げて回したり、または踏み出す前に身体の向きを変えて送球した場合ボークである。(後段省略)」と記されています。

この投手は、自由な足を一塁へ踏み出してはいるのですが、その前に身体が一塁側に傾くことで本条に抵触していました。球審は「規則の適用に関する疑義」への説明として、「塁へ送球する前に、自由な足を直接その塁の方向に踏み出していなかった(その前に身体が一塁へ傾いてしまった)こと」を説明し、ベンチからも納得のサインが届きました。

ボークには「塁上の走者に一塁の安全進塁権が与えられる」という重いペナルティーが課せられます。「どこまでがボークではなく、どこからがボークなのか」といった解釈ではなく、規則の一言一句を正しく理解した堂々のピッチングが投手の原点です。

